

ものづくり de 教育

Vol.8 July.2009

Topics

- 実践ワークショップ計画
- 「心を込めてつくること」
- ものづくり教育 Keyword
- 主要授業の紹介

東京学芸大学教育学部
小学校教員養成課程
《ものづくり教育選修》
2010年度から
はじまります！(予定)

「ものづくり教育」実践ワークショップを計画する

大学説明会の場で「東京学芸大学ものづくり教育選修」を感じてもらう。

2009年7月18日に、東京学芸大学では大学受験生に対してオープンキャンパスを開催します。今回の説明会では、国際教育選修、日本語教育選修、情報教育選修、ものづくり教育選修を新たに紹介します。来場した受験生に実際に行われる活動例を見てもらおうと、ワークショップを企画しています。今回は石井先生の指導の下、美術教育2年生の大森さんと小松さんが協力してくれました。モノ・コト・バを活かしたものづくり教育選修を疑似体験できるワークショップの作成に取り組んでいます。(新名)



実施：2009年7月18日(土) 13:00~15:00
場所：東京学芸大学 講義棟 C102&C103

ものづくり教育とは何か？と、この紙面を通じて話をしてきましたが、実際にものづくり教育選修の取り組みを公開するのは初めての事です。まずは大森さん小松さんが理解することから始まり、子どもと一緒に取り組む場をつくることを「モノづくり」を軸に考えていきました。子どもが楽しめて何かを吸収して帰れる「コト」、会場の制限を考慮しながらもそこにいる来場者も巻き込んでしまえるような面白い「バ」を、手を動かした試行錯誤の中で模索しています。実際に会場に立って、身体を動かして感じたことを元に構成しているので、ここでしか味わえない、子どもを通して生み出される場のチカラをぜひ体験しにきてください。とても素敵なプログラムができつつありますよ！

私はこのWSを、自らの学びの場だと考えています。「考えるっておもしろい！」このWSを考えるにあたり、実感からの学びの面白さに気がつかしました。こどもたちにもそう感じてもらえるような場を作りたい。教える、ではなくこどもと一緒に学びたいと思います。(美術科2年 大森はるか)

この企画に関わって、なぜ？どうして？と頭を働かせながら手を動かすことが、とても大切な事だと改めて実感しました。来てくれる子どもたちや見に来てくれる学生さん、そして私自身が何かを得る事ができるワークショップに出来たらいいと思います。是非！おいでください！(美術科2年 小松由)

推進メンバー課外リポート： 心を込めてつくること 山田一美

今回は山田先生が美術教育の中で現在行っている授業をご紹介します。ものづくり教育選修がはじまるまであと1年ですが、それまでにプロジェクトの取り組みのひとつとして「カリキュラムの試行」を行います。実際に「ものづくり教育」が小学校で実施されるときに図画工作の中ではどんなアプローチができるか？と考えられた取り組みをお話いただきました。(新名)

今、学校教育では、将来の職業や生活を見通し、社会において自立的に生きるために必要な力として「生きる力」のあり方が活発に研究されています。たとえば、それを支えるものは、「確かな学力」であるとか、「豊かな心」であるとか、「健やかな体」であると説明されます。それらを具体的に育むために、「習得」「活用」「探究」という学習方法が教育現場で注目されています(※注)。ところが、それらは説明のされ方が不十分であったために、ものごとの学びの順序は、一に「習得」し、二に「活用」し、最後に「探究」することのように考えられてしまいがちです。しかし、その見方は、子どもたちや人間のもののとらえ方(感性)や考え方(思考方法)を十分に生かしたものではありません。

現在、私は、小学校において「ものづくり教育」を担うための体験題材を開発しようと、「木」を使った学習活動を、学部3年生を中心に授業のなかで協力してもらい、実験的に行っています。題材のテーマは、「心やさしい形、心あたたかな形」を表現することですが、学生のみなさんは、自分のこれまでの経験や発見を生かしながら、探究し、工夫し、自らの新しい取組を追求しています。ここでは、習得→活用→探究の道筋ではなく、複雑に組み替えたり、重ねたり、順序を変えたりして取り組む姿が見られます。このプロセスは、子どもの場合、もっと複雑なものだと確信しています。

その意味で、材料や物を実際に手に取り、道具を使って操作し、創意工夫して形に表現していくプロセスは、「生きる力」を生きた形の中で育むことのできる、最適な学習活動といえるでしょう。だからこそ、学校教育ではこのダイナミズムを豊かに取り入れた学習スタイルを失ってはなりませんし、その醍醐味を伝える機会をつくれるのは、あなたたち、未来の先生だといえるでしょう。(山田)

(※注)

- 習得型学習…基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 活用型学習…習得型学習での理解・定着を基礎とした、知識・技能の活用
- 探究型学習…活用する力を基礎とした、課題の探究

写真の作品は、①小鳥、②人、③家の制作途中の様ですが、それらがどこに展示・設置されるか、その情景を想像することもこの授業の課題です。



ものづくり教育
Key word

No.007

実感力 【名】よみ：ジッカンリョク

◎ものづくり教育選修のために掲げたカギとなる言葉。「先生」に必要なチカラとして位置付けている。
 [大意] 自分が関わるモノ・コト・バの中に、様々な自分を再発見するチカラ。
 [解説] 自分を取り巻く環境に働きかけ、自分以外の対象を通して自ら自分を改めて感じる感性。自分の作ったモノの中にワクワクしている自分を見つけたり、誰かとの出来事の中にドキドキしている自分を見つけるコト。関わった先により多くより大きく自分を見つけると存在感も増し、自分が発する表現が説得力を帯びます。
 [類義] 我に返る事や、風邪をひいたとき元気が一番改めて思う事など。小さい事ですが積み重なると多大なチカラになります。(石井)

ものづくり教育選修のアドミッションポリシー

本選修は、ものづくりの感性を育む学習活動を通して、もの与人、人と人とのつながりに目を向け、教科横断的に様々な場や出来事に主体的に働きかけることができる小学校教員を養成することを目的とし、チームワークや創意工夫、創造への積極的な構え、技能や緻密さへのこだわり、環境へのかかわり、自己肯定感や仕事・職業観の形成等に興味をもち、コミュニケーション力や協同性、構想力、創作力、表現力等の資質や能力を発揮したい人を求めています。

ものづくり教育選修の主要な授業を紹介します！

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
しごととものづくり	学びとものづくり	デザインとものづくり	あそびの世界とものづくり	道具とものづくり	教育実習(基礎)	教育実習(応用)	
	ものづくり教育と情報	ものづくり教育臨床	ものづくり教育と教材		ものづくり教育カリキュラム論		
ものづくり教育演習Ⅰ	ものづくり教育演習Ⅱ	ものづくり教育演習Ⅲ	ものづくり教育演習Ⅳ	ものづくり教育演習Ⅴ	ものづくり教育演習Ⅵ	卒業研究	卒業研究

◎5つのコア科目

当初から軸として考えられていた「しごととものづくり」「学びとものづくり」「デザインとものづくり」「あそびの世界とものづくり」「道具の世界とものづくり」を、専門教育の核となるコア科目として位置づけます。これらをすべて履修した後、3年次の秋には初めての実践の場として教育実習が待っています！

◎4年間をとおして指導教員は全教員です。

ものづくり教育演習は「プロジェクトを通じて、インタラクティブな行動のあり方、コミュニケーションの能力、技術、理論などを学ぶ」科目です。担当教員は、ものづくり教育メンバーの先生全員。それぞれの先生の得意とする分野の力を、学生本人が必要としたとき積極的に吸収できる機会を用意しています。いつでも力になってくれますよ。

本報は、文部科学省の認定する「質の高い大学教育推進プログラム」を受け、『小学校教員養成のためのものづくり教育開発』活動報告も兼ねて情報をお伝えします。

国立大学法人 東京学芸大学 田中喜美 山田一美 坂口謙一 鉄矢悦朗 石井壽郎

ものづくり de 教育 Vol.8
 発行：東京学芸大学 A 類ものづくり教育選修（予定）
 Tel&Fax: 042-329-7658（田中研究室）
 URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~monoedu>
 発行日 2009/7/15 編集 専任研究員 新名佐和子